



させほ夢大学

発行●公益社団法人 させほ夢大学
編集委員会
事務局／〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555 FAX.0956-25-9545
https://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

開催ご案内 25-9556

夢のつづき

させほ夢大学会報

No.313 <2022・4>

令和4年度
第1回

2022年4月21日(木)

開場 17:30

講演 18:30 (終了20:00)

アルカスSASEBO 大ホール

令和4年度スタートの日にお迎えする講師は、「増税する前に、まず政府の無駄な出費を減らす!」ことを主張する「上げ潮派」の論客、元大蔵・財務官僚の高橋洋一さん。2007年に財務省が隠す国民の富「霞が関埋蔵金」を公表し、一躍脚光を浴びられた方です。

高橋さんは、1955年東京都巣鴨のお生まれで、東京大学理学部数学科卒業、さらに学士編入により経済学部経済学科を卒業し、大蔵省に入省。入省前には「感染症数理モデルの研究者」だったという、異色の経歴をお持ちです。

理財局資金企画室長、プリンストン大学客員研究員、内閣府参事官（経済財政諮問会議特命室）、総務大



臣補佐官などを歴任されました。また、大阪維新の会のブレーンでもあり、かつては大阪市特別顧問も務めておられました。最近では、菅義偉内閣において内閣官房参与（経済・財政政策担当）を務められました。

現在、嘉悦大学ビジネス創造学部教授、株式会社政策工房代表取締役会長としてご活躍中です。

著書には、『武器になる経済ニュースの読み方』、『ポスト・コロナ「新しい世界」の教科書』、『「バカ」を一撃で倒すニッポンの大正解』など多数上梓されています。

「コロナ大不況後、日本は必ず復活する!」という、高橋さんの「日本の未来予想」に、どうぞご期待ください。

講 師 ● 嘉悦大学教授
(株)政策工房 代表取締役会長 たかはし よういち 高橋 洋一氏

テーマ・コロナ後の日本経済再生のシナリオ



次回のご案内

■と き／5月19日(木) 18:30～20:00

■講 師／フリーアナウンサー
キャスター ふるたち いちろう 古館 伊知郎氏

■テーマ／常識を疑え

●立教大学を卒業後、1977(昭和52)年、テレビ朝日にアナウンサーとして入社。「古館節」と形容されたプロレス実況は絶大な人気を誇り、フリーとなった後、F1などでもムーブメントを巻き起こし「実況=古館」のイメージを確立する。一方、3年連続で「NHK紅白歌合戦」の司会を務めるなど、司会者としても異彩を放ち、NHK+民放全局でレギュラー番組の看板を担った。その後、テレビ朝日「報道ステーション」で12年間キャスターを務め、現在、再び自由なしゃべり手となる。2019年4月、立教大学経済学部客員教授に就任。

高橋 洋一 氏のプロフィール

●東京大学理学部・経済学部卒業後、大蔵省（現財務省）入省。各要職を務められ06年内閣参事官。小泉・竹中改革の中核メンバーとして、郵政民営化・道路公団民営化・政策金融機関一本化・公務員制度改革に尽力。07年「霞が関の埋蔵金」暴露で一躍脚光を浴びた。08年退官。現在、嘉悦大学教授。山本七平賞を「さらば財務省!」で受賞。

4

2022

ご来場時の注意事項とお願い

- 4月21日(木)の講演会は、**1日1回講演**です。
- 会場で、「座席番号票」を記入していただきますので、筆記用具をご持参ください。**講演終了時まで記入して、「回収箱」にお入れください。
- ご入場の際は、手指消毒・検温をしますが、体調の悪い方は入場をご遠慮ください。
- できるだけ不織布マスクを着用し、会話は控えてください。
- 学生ご本人が欠席で代理出席の場合も、必ず、学生証をご持参ください。
- 開演5分前から1階席には入場できません。
- 席取りはご遠慮ください。
- 携帯電話等の各種電子機器は、電源を確実にお切りください。
- アルカスSASEBO大ホールの空調は、部分的な調整ができません。できる限りの対応をしていますが、フロア及び座席の位置によってはかなりの温度差があります。十分な準備をされた上でご出席ください。

※新型コロナウイルスの感染拡大状況や講師の都合、天災その他不測の事態により、開催日時の変更や延期、または講師を変更して代替開催する場合があります。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

ふるさと紀行

佐々谷歴史探訪

1

狸山支石墓群と鯉節型大珠 (長崎県指定文化財)

平戸街道ネットワークの会 みかつき ゆうすけ 拙 由典

支石墓(しせきぼ)は、世界各地で見られる巨石墓の一種である。朝鮮半島では紀元前500年頃から見られ、遺構は朝鮮半島のほぼ全域に及び、その数は約4〜6万基で、世界の支石墓の半数が朝鮮半島にあるといわれている。

当初は、地上に支え石を箱形に並べ、その上に天井石が載るといってテンプル形状を示しており、天井石の下で祭祀が行えるようになっていた。その後、南へ伝わってゆくにつれ、支石は地下へ埋設されるようになり、天井石が地表まで降りてきている。

日本では縄文時代晩期(紀元前300〜400年)の長崎県に出現し、九州内に28群が確認されている。我が国に大きな生活基盤の変革をもたらした稲作文化と共に

に伝来した大陸系の墳墓であり、日本の稲作文化の原点を象徴するものである。弥生時代前期が終わる頃に、ほぼ終焉を迎えている。長崎県は特に支石墓遺跡の多いところで、現在11群が確認されている。

昭和38年に地元住民が石棺を見つけたことで、その存在が明らかになった国指定史跡である佐世保市鹿町町大野台支石墓群は、最初80基ちかくが群在していたが、現在は約50基が確認できるといわれる。

佐々町狸山支石墓群は、昭和32年(1957)に当時の九州産業大学教授・森貞二郎氏を中心に調査が行われた。その結果、熊野神社上の丘陵(通称狸山)の先端沿いに、7基の支石墓が確認され、翌年には長崎県の文化財に指定された。

狸山支石墓群の中の一つから硬玉ヒスイ鯉節型大珠一点が出土しており、白い斑点のある淡緑色で、長さ4.4センチメートルで楕円形、一孔を穿っている。硬玉ヒスイ大珠の原産地については様々な推測がなされてきたが、分析科学応用の進歩(蛍光X線分析)により、日本列島各地で発見された硬玉・弥生・古墳時代の硬玉ヒスイ大珠すべて

が、新潟県糸魚川市姫川流域の原産であった。

新潟県の西端にある姫川河口と青海(おうみ)川河口の間、日本海に面する低丘陵の先端部に営まれた寺地遺跡(てらじいせき)では縄文時代中期(約5000年前)から晩期にかけての、玉造工房跡とみられる竪穴住居跡が発見されており、内部からは、姫川あるいは青海川の河床で採取したとみられるヒスイ大珠の完成品・未完成品、蛇紋岩製の石斧・石鏃・石槍・叩石・石錘などの完成品・未完成品が多数見つかった。

そこで作られたヒスイ大珠が姫川流域から海路を通じ、貴重な交易品として数千年の時を超え、佐々の地まで運ばれてきたに違いない。



狸山支石墓群出土品鯉節型大珠

講演を聴かれた感想をお待ちしています! 600字程度にまとめて、させば夢大学事務局まで、郵便・FAX・メール等でお送りください。締め切りは4月27日(水)必着です。